

恵那市議会委員会行政視察報告書

1. 委員会名 リニア中央新幹線対策特別委員会
2. 視察年月日 平成28年 7月19日～20日 2日間
3. 視察委員名 堀 誠 (委員長)、町野 道明 (副委員長)、西尾 努、後藤 康司 (副議長)、小澤 建男、畑村 眞吾、柘植 羌
4. 随行者 議会事務局長 三浦 幸慈、書記 鈴木 聡
基盤整備部リニアまちづくりチーム政策推進監 林 雅樹
5. 視察地及び視察事項の概要

月日	視察地	視察事項の概要
7月19日	長野県下伊那郡大鹿村 (視察先: 大鹿村役場) 【リニア建設について】	別紙のとおり
7月20日	山梨県笛吹市 (視察先: 笛吹市役所 八代庁舎) 【リニア建設について】	

上記のとおり報告します。

平成28年9月1日

恵那市議会リニア中央新幹線対策特別委員会

委員長 堀 誠

恵那市議会議長 堀 光明 様

リニア中央新幹線対策特別委員会行政視察報告

リニア中央新幹線対策特別委員会は、今後、予測される当市における検討課題の調査研究のため、下記現地を行政視察したのでその内容を報告します。

■「リニア建設について」

大鹿村役場（長野県下伊那郡大鹿村）

1) 視察の目的

大鹿村もリニア中央新幹線が通過する村で、工事に伴う付け替え道路やトンネル掘削が予定されている。また当初の計画から送電鉄塔が2本減っている。南アルプストンネル工事から出る残土の対応など大鹿村の取り組みについて視察を行った。

2) 調査事項

1. 大鹿村内の工事計画

リニア非常口：4箇所（1箇所は最終的には埋め戻し）。変電施設：1箇所。リニア地上部：1箇所（小渋川橋梁）。発生土仮置き場候補地：8箇所。

2. 工事概要

（1）工事にかかる道路整備などについて

トンネル残土処理地が松川町に予定されており主要地方道松川インター大鹿線の改良は不可欠である。実際に大鹿村役場へ向かう際にマイクロバスで通ったが道幅が狭く砂利を運んだダンプとのすれ違う時はギリギリであった。村民にとっても全線2車線化は永年の悲願であったことからJRと県の負担により拡幅される事になっている。中にはトンネル工事2本も含まれている。県道赤石岳公園線は交通量調査によって520メートル間隔で待避所を設置する計画。なお、改良工事関係には地元企業の参入の要望も行っている。

（2）発生土について

村内8箇所の仮置き候補地が確保されているが、松川インター大鹿線改良までの措置である。将来的な利用は、村有地のグラウンド造成など恒久的に利用し、私有地については利用計画を所有者と協議予定。また、村中心部は大型車のすれ違いが困難で、学校、福祉施設、住宅地もあり、国・県と協議の上、生活環境

を守るため迂回路設置をJRに要望している。

(3) 送電線等について

電源供給用の架空送電線工事があり、大鹿村村内では4キロで鉄塔9基が予定されている。地中化を要望してきたが架空送電線しか考えられていないため、視点場からの景観に配慮したルートや高さ・色といった景観配慮の要望を行っている。当初計画は12基であったが、長スパン等にするにより現在は9基まで減らしている。

変電所計画は、住民説明会で概略の用地範囲が示され、地権者説明会で同意の意向を得た状況で、詳細は今後協議していく。

電磁界の安全性については、一般的な資料に基づき基準値より相当低い事から安全である事が説明されている。地元説明会では電磁界の説明パンフレットが配布された。

(4) その他

工事関係者へ食材の調達など地元貢献を要望しており、村の呼びかけでJV・地元商工会・農家組合の連絡会議を開催し、JVで必要な品目や数量、値段等の提示し、取り組み方法を事業者間で協議している。

3. 大鹿村リニア対策委員

委員会の構成：村長、議会2名、農業委員会1名、教育委員会1名、住民有識者3名、商工会1名、観光協会1名、建設業協会1名、飯伊砂利組合1名、下伊那漁協1名、大鹿の100年先を育む会1名。計14名

3) まとめ

大鹿村では村長をトップとした委員会が設けられ、村全体として要望を行っている。また村民に対する情報提供がタイムリーに行われておりリニア建設に対する対応が迅速かつ適切に行われている。恵那市も幅広い代表者による対策委員会を設置する必要があると考えられる。また工事用道路の確保、残土処理問題、送電線問題、騒音・環境問題等の課題が発生するので、県と協議を早く進めてJR東海との協議を具体的に対応できる体制を整える必要があると感じた。



【説明を受ける委員】

■ 「リニア建設について」

笛吹市役所八代庁舎（山梨県笛吹市）

1) 視察の目的

平成 24 年に中津川市と恵那市合同で行政視察を行っている。その後の状況や諸問題への対応をどのように行ったか。実験線が既に走行しており、これから工事が始まってくる恵那市に対してのアドバイスなどを聞くと共に、対策を講じた現地を視察する。

2) 調査事項

1. 減渇水対応について

河川 2 系統が減水。井戸 8 地区 10 ヶ所が枯渇。河川についてはトンネルから出る湧水を河川へ戻している。簡易水道においては再度井戸を掘削し配管・管理棟も新しくなり補償金を渡して管理する形となっている。補償については最高 30 年となっており、30 年後の取り決めはされていない。農業用水については、補償でやっていただいている。どの補償も地縁団体と機構で行っているため、市は関与していない。新幹線の減衰の調査範囲を JR 及び機構は永年のデータから言えば、1.5 キロを調査すればよいとの話をされるが、笛吹市は 2 キロまで範囲を広げていただいたが、実際は 2.5 キロ範囲まで影響が出た。笛吹市からのアドバイスは、調査範囲を広めにし、詳細な内容を決めておいたほうが良い。

2. 路線排水・雪害・防音対応について

路線排水は別の水路を設置していただき、大きな河川まで導水管を設置。雪害については、雪止め板や管理用道路等で直接下に落ちない対応していただいた。騒音に関してフードのある部分について苦情はない。150 キロまではタイヤ走行であるため高速道路と同じように音は発生する。151 キロからは宙に浮くので風の音のみになる。

3. 日照問題対策について

家屋については法により 3 から 4 時間の日照時間があれば対象外となる。家屋、農地及び果樹については補償額が違ってくるため個別対応で補償されている。個別対応であり市としての介入はない。

4. 工事に伴う騒音・振動・交通安全等について

運搬時による果樹への影響があったため、出るダンプのタイヤ洗浄及び道路の汚れも含め散水車にて対応していただいた。交通面は、ライトの点灯や速度規制、時間差運

搬、交通誘導員などで安全対策に努めた。道路の舗装に関して、詳細部分までの協議がされていなかったため、悪い箇所だけを直すことによりつぎはぎのような状態になってしまった。

3) 現場視察

1. 井戸枯れした地区の現地視察

リニア建設により 20 世帯の地区の井戸が枯れるという現象が発生。新しい井戸を掘削し対応していた。実際に現地を視察したが、実験線からは離れているように感じられた。



【今回新設した井戸の貯水槽】

2. リニアが見える丘公園 展望台の現地視察

リニアが見える丘公園を整備（2億1,000万円）。今回は「花鳥山公園」を視察。公園には駐車場、休憩所、トイレ、ベンチ等が整備されている。またリニアの実験線車両が何処を走行しているかが分るモニターも設定されており、見学者にとっては分かりやすい設備であった（設備費 650 万円）。ただ、ここから見える実験線は営業線になったらフードを全面に覆う予定である。笛吹市からは、「フードで覆うとリニアは見えなくなるが、笛吹市の桃源郷が見渡せる場所でもあり、眺望を楽しんでいただく公園施設として活用できる」との説明を受けた。



【休憩施設】



【実験線車両走行場所表示板】

4) まとめ

笛吹市では実験線の工事は終わっているが、営業線の工事がこれからである。営業線になれば、すれ違い走行や 500 キロでの運行などの騒音問題も新たに発生してくることも考えられる。業者との調整については、言葉の取り方によって認識が変わってしまうこともあるので、細部まで行っておく必要があると教えられた。

恵那市においても、業者との工事内容は詳細まで行う事、事前調査範囲をしっかりと協議、相談窓口の明確化が必要であると感じた。